

言論と公益を脅かすニセ科学問題

日時 12月23日（祝・金）14:00～16:40

会場 文京区勤労福祉会館 区民会議室（定員60人）

参加費 1,000円 お申込みなしでどなたでもご参加できますが、人数把握のためご連絡くださればありがたいです。

メール：civilesocietyforum@gmail.com まで。

【プログラム（予定）】

●講演 松崎いたる・板橋区議会議員「松崎いたるがどうして訴えられるにいたるのか？—ホテル生態環境館問題の闇」

●話題提供① 小波秀雄・京都女子大学名誉教授「放射能が消えるとはどういうことか—裁判資料を科学者の眼で読み解く」

●話題提供② 左巻健男・法政大学教授「ニセ科学はなぜ市民道徳と社会的道義に反するのか？」

●話題提供③ 天羽優子・山形大学准教授「ニセ科学の手口と対策」

●討論

【開催趣旨】

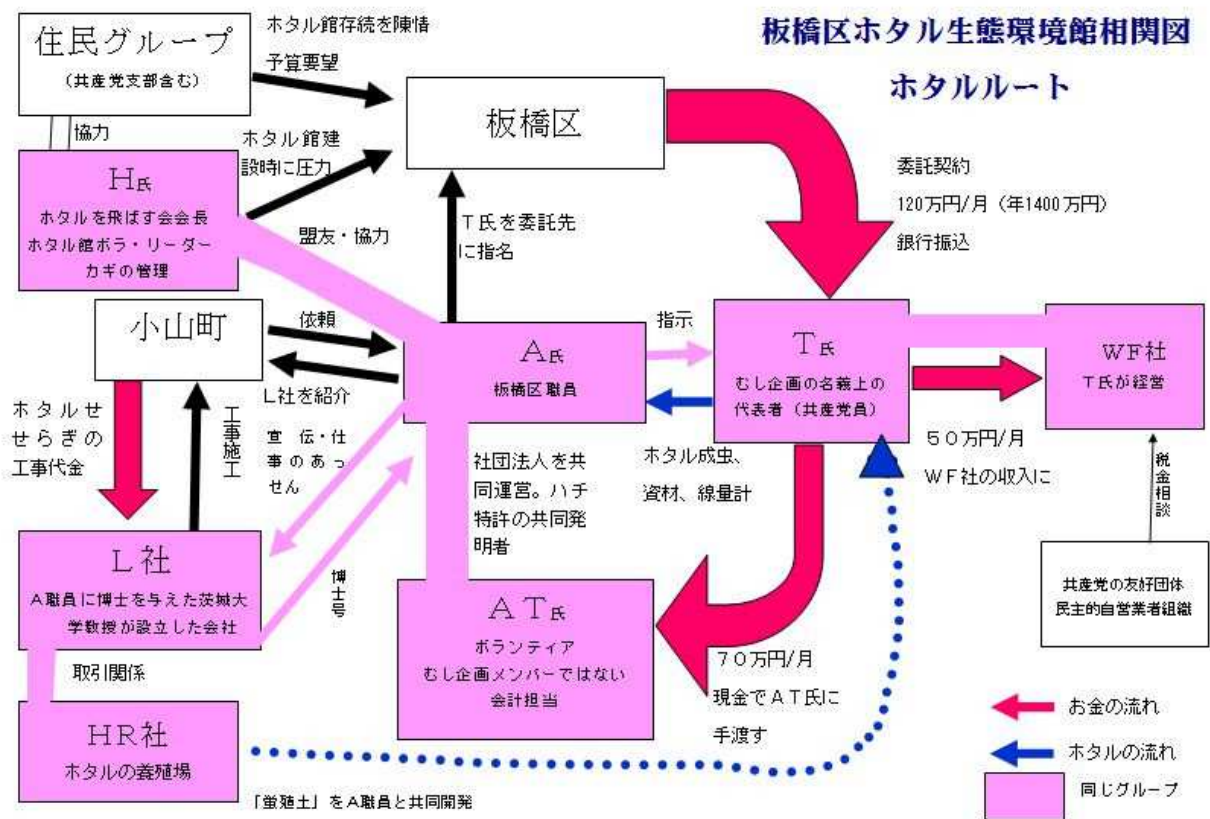
ニセ科学を「インチキ」だと批判したら裁判に訴えられた！

こんな耳を疑うような言論の自由を脅かし、市民の公益を損なう事態が起きています。

ニセ科学は科学的な思考を麻痺させ、思考停止にし、市民を非科学の方向にいざなうものです。ニセ科学が放置されれば、信じてしまった人たちは効果のない商品に散財してしまったり、健康に関するニセ医療などでは命にかかわる危険性もあります。また、ニセ科学は行政や政治とも繋がって、市民の税金の無駄遣いにもなる場合もあります。

今回は、ナノ銀で放射線が除染できるというインチキ・ニセ科学を批判したら訴えられたという事例を中心に検討を行いますが、類似の事例はこれだけにとどまりません。

なぜニセ科学を公益性を守るためにインチキだと批判しなければならないのか、ニセ科学を批判することで生じかねない不利益を防ぐためにどのような心構えが必要なのか、被害にあった当事者とニセ科学問題に詳しい研究者をお招きしてお話しいたします。



阿部 宣男
 2011年10月29日、東京都新宿区周辺

銀の特異性は、イオンとなり飛び出しても瞬時に元の姿（金属の状態）に戻ります。この時の電氣的パルスが発生その電位差は1600mV以上で、10-6sec以上の極端に短い周期で大きな電氣的振動が発生します。この電氣的振動により、放射能のエネルギーを奪い取ります。放射性物質の電氣的エネルギーとナノ純銀粒子の電氣的エネルギーが衝突し、エネルギー変換をします。除染はナノ銀を散いた方が人間にも自然にも良いと思います。ガンマ線は電気が無いので、通常の濾材や方法（電気ブレーキ）では食い止めるのは不可能です。ナノ銀の電子に数回が衝突すればガンマ線のエネルギーが消滅します。

シェア 4 シェア1件

阿部 宣男
 2012年1月3日

1月3日午前10時15分 放射性汚染水1.79μSv/h・24700ベクレルをナノ純銀担持骨炭100グラム、ナノ純銀担持白御影石100グラムに通過させます。通過直後値は0.11μSv/h・207ベクレルとなりました。放射性を含んだ濾材の放射線量も減り続けています。濾材自体が放射性産業廃棄物にはなりにくい事になります。このようなナノ銀等の実験及び試験は1000回を越えています。

出典：Facebook

板橋区ホタル生態環境館不正事件と「名誉毀損」裁判

2016年12月23日

板橋区議会議員 松崎いたる

■板橋区のホタル飼育事業

- ・平成元年（1989年）から、実質的には2014年1月27日まで
- ・年間予算は3000万円～4000万円。25年間で10億円以上。（調布市のホタル事業は年10万円程度）
- ・飼育担当職員（元職員）は20年間異動なし。正規職員は1人だけ。上司のいない職場。茨城大学大学院に社会人入学。博士号（理学）を取得。「ホタル博士」として信頼される。
- ・元職員の報告では毎年2万匹を羽化、25年以上の累代飼育に「成功」
- ・2014年1月27日の生息数調査で発見したのはわずか2匹だけ
- ・「ホタル持ち込み」の内部通報⇒区の内偵⇒生息数調査⇒懲戒免職⇒DNA検査で「累代飼育」否定

■元職員の懲戒免職の理由

- ・静岡県小山町とのホタル水路設置工事で無断契約、ルシオラ社への便宜供与
 - ・石川県能登町とのクロマルハナバチ飼育販売事業で無断契約、イノリー企画への便宜供与
 - ・鎌倉・鶴岡八幡宮のホタル祭に無断で関与
 - ・ホタル館の鍵を友人の民間人に預け、占有させていた。
- ※ホタル持ち込み、飼育偽装は調査結果が遅れて懲戒事由にされなかった。

■松崎区議が追及したこと

- ・懲戒免職事由のほかに
- ・ホタル飼育偽装（累代飼育はウソだったのではないか？という疑惑）
- ・ナノ銀ニセ除染（「理学博士」の信用にかかわる問題として）

■元職員（原告）の主張

「原告の『ナノ銀により放射線の低減』という主張について、非常識であり、わざと嘘をついて（損害を与えようとして）いる、不正である、うたがわしい、本物だと偽っている、及び実際にはないことをあると知っているなどと評価することは、（元）公務員かつホタル飼育の第一人者かつ理学博士である社会的評価を低下させるものである。特に、定説がなく、かつ、実際の実験により結果が発

生し研究会でも発表された、ナノ銀による放射線の低減という事柄に関して。これを非常識等と評価することは、尚更原告の社会的評価を低下させているものといえよう。被告の表現は…『実験結果は信じられない』と主張する事と『これはインチキだ、デタラメだ』と主張する事の間には質的な違いがあつて、明らかに被告の表現はまさに社会的信用を失墜させるためのものといひようがない。」(原告訴状より)

■名譽毀損にあつると原告が主張している表現

トンデモ＝「非常識な」、詐欺＝「わざとウソをついて、他の人に損害を与えること」
インチキ＝「不正、ごまかし」、いかがわしい＝「(ほんとうかどうか) 疑わしい」
ニセ科学＝「本物だと偽った」科学　でっちあげ＝「実際にはないことを、あるように作りあげる」

■なぜ「インチキ」と表現したのか

- ・「ナノ銀除染」はじつさいに商品化され、騙されている人もいた。
- ・柏市では、公共の除染事業として採用されていた。
- ・ナノ銀による化学反応で放射性物質の原子核変換を起こすことは不可能であるという科学常識を理解できる人、あるいは理解しようと努めることができる人ならば、そもそも「ナノ銀除染」などを信じることはない。
- ・科学的、論理的に考えることが苦手な人たちにも疑問を感じてもらい、立ち止まって考えていただくためには、学術用語を使い、論理立てて説明するよりも、断定的な言葉で直観的に感じ取ってもらうことが必要。
- ・「インチキ」というレッテル貼りが有効。

◆「インターネットにもニセ科学やニセ科学の説明を用いた商品などへの批判的なブログ記事やツイッター——のまとめ記事なども増えています。知りたい商品などに『批判』、『トンデモ』などをくっつけて検索すると、いくつかヒットする場合が増えてきました」(左巻健男教授「ニセ科学を見抜くセンス」)

◆「教師が『疑似科学』にひっかからないための方法としては、万全ではないけれど、少なくとも新たな指導法を試す時は、その前に必ずインターネットで調べてみてほしいです。『トンデモ』や『インチキ』といった言葉を付け足して検索すれば、怪しいものはすぐにわかります」(川端裕人、中央公論 2015 年 12 月号 特集「『疑似科学』と科学のあいだ」 対談・教師も騙される学校教育に入り込んだ“トンデモ科学”)

◆(3・11 震災後の不確かな情報について) ツイッターなどインターネット上でも情報の検証が

行われ、否定情報の周知が試みられた。その際に使用されることが多かったのが「デマ」というラベル貼りである。事実と反する情報を、いち早く否定するにはわかりやすさが重要である。その際、「デマ」という強く否定的な意味を持つ言葉が用いられたのは適切であったと考える。(松田 美佐、「うわさとは何か ネットで変容する『最も古いメディア』」中公新書)

■政治問題としての「ナノ銀除染」

◆下村博文氏

ホテル生態環境館で阿部宣男さんに話を聞く。その板橋でもホテルに奇形が生まれている。放射線の影響だそうだ。

そのために、阿部さんはナノ純銀粒子による放射性物質の低減実験を行っている。環境に敏感なホテルやクロマルハナバチ再生等でカビ、病原性大腸菌、ウイルス対策としてこれまでもナノ純銀粒子(抗菌メカニズム)及び担持材を研究して10年になるが、これが放射性物質にも効果があることがわかったという。(ブログ ホテル生態環境館のホテルの奇形出現 2012年6月23日)

◆参院本会議 2013年3月6日

●森ゆうこ議員 放射能対策は最優先の課題です。原発サイトの汚染水問題や各地の放射性汚泥など、一時的な管理は限界に達しつつあります。新しい技術も活用し、これまでにない発想で早急に対応すべきです。あわせて、放射能で汚染されたものを拡散する政策は世界の常識に反するものであると考えますが、総理の御所見を伺います。

例えば、新しい技術の中に、下村文部科学大臣も御関心のあるナノ純銀によるセシウム低減技術があります。二月六日、放射線関係の研究会で、半減期を著しく短縮させる減弱効果があったとの検証測定結果が報告されました。まずは、しかるべき機関に実情を調査研究させるべきと考えますが、下村大臣、いかがですか。

●下村博文文科大臣 森議員から、ナノ純銀によるセシウムの低減技術についてのお尋ねがございました。

除染技術については、これまでも様々な研究機関や団体等から新しい技術が提案され、日本原子力研究開発機構においては、様々な除染技術に対して実証試験等を行い、その効果を確認してまいりました。

さて、私も関心のあるナノ純銀によるセシウム低減技術でございますが、日本原子力研究開発機構が関係の大学とともに二度にわたる試験を実施しましたが、残念ながら御指摘の効果は確認されなかったものと聞いております。しかし、除染技術として効果的なものを活用していくことは極めて重要であり、文部科学省としては、日本原子力研究開発機構に対し、今後とも各方面から御提案のある技術について、関係各省とも連携し、積極的にその技術的評価に取り組み、有望な技術の確認を行うよう要請してまいります。(拍手)

◆小沢一郎氏

「やればいいじゃないか」

4月9日、永田町の議員会館で男性（元職員のこと——引用者）が放射能汚染の新しい除染方法について説明し終わると、民主党の小沢一郎元代表はそう語った。（中略）だが、「さまざまな関係機関に相談してもなぜか話が進展しない」と阿部氏は話す。そこで頼ったのが「原発問題を最優先に解決すべき」と持論を訴えていた小沢氏だった。「小沢先生はやってみる価値があるといってくれた」（阿部氏）

（小沢氏が進める「放射能浄化」計画の仕掛け人『サンデー毎日』2012年5月6・13日・ゴールデンウィーク合併号）



マネー資本主義という病根との闘い

政治評論家 平野貞夫



NIPPON 2012.2 36

既得権が放射線除染技術の可能性を掴み取る
 マネー資本主義という病根による問題は、消費税増税だけではない。
 平野 この病根は、福島原発事故で放射性物質に汚染された土壌や水の除染にも見られる。政府は二〇一二年度予算案で、災害廃棄物の処理や原発事故被災地の除染などに三兆二五〇〇億円の予算を組み、除染モデル事業は日本原子力研究開発機構が担う。問題は、同機構が再委託する共同企業体の幹事会社に、大成建設、鹿島、大林組といったゼネコンが入っていることだ。経済産業省資源エネルギー庁の資料では、この三社は、全国全五十七基の原子炉建屋の建設実績でも、そのベスト3を占めている。これに対しては、焼け太りだとの批判も出ている。しかも、既得権を握る官僚、科学者の理論に基づいて除染が進められようとしている。例えば、現在進められている除染は、「セシウム137の分解はできない」という前提に基づいて進められているのだ。だが、この前提自体に問題があるという理論を提唱している人もいる。
 板橋区ホテル生徳環境館の阿部官男氏は、「ナノ純銀粒子」によって放射性物質を除去できると主張している。

39

もともと銀には、イオン（電荷を帯びた原子）になって飛び出しても、瞬時にもとの金属の状態に戻るという特性がある。ナノ銀粒子では、このイオンから元の金属の状態に戻る現象が極端に短い周期で繰り返され、このときに電気的パルスが発生する。この力を利用して放射性物質を軽減させることができるといふ研究が行われているのだ。

阿部氏は、昨年十二月十日に、福島県郡山市エムポリウム並木幼稚園で、ナノ銀等を使用した放射線除染試験を実施し、その効果を実証している。ナノ銀担持骨炭などを入れた濾過装置に、放射能で汚染された水を通過させて濾過したところ、三万二〇〇〇ベクレル（セシウム134とセシウム137の合計）だった水が、三回の濾過で三二七〇ベクレルまで低下し、さらに一カ月後には四八五ベクレルにまで低下した。

つまり、放射性物質の電氣的エネルギーと、ナノ純銀粒子の電氣的エネルギーが衝突して、放射線エネルギーが、熱エネルギーや光エネルギーなど、無害なエネルギーに変換していると推測されている。

もちろん、この仮説は実証されたわけではなく、さらなる研究の余地がある。ところが、日本原子力研究開発機構はこうした研究を受けつけようとしていない。彼らの言

いは化学方程式によって説明できないから研究として認められないというものだ。放射線除染という未開拓の分野の研究をこのような形で阻害すべきではない。既得権を持っている科学者、官僚、企業が、新たな可能性のある有望な研究の芽を摘み取っているとは思えない。ここに、わが国の深刻な病根があるのだ。

NIPPON 2012.2 40

■日本共産党の態度

・2015年7月5日 日本共産党板橋地区委員会 地区党会議での委員長報告。この報告は代議員の全会一致で採択。

◆地区委員長報告【板橋区ホテル生態環境館の問題にかんする部分】

「区政問題に関連してホテル生態館の疑惑追及の問題について、ひとこと報告をしたいと思います。このホテル生態館は25年間、10億円の区民の税金をつかって取り組まれた事業であります。ここでの疑惑追及は区民の税金のつかわれた事業として重要な意義をもつものでありました。ひきつづきふさわしい取り組みが必要であります。

そしてこの問題を追及してきた松崎区議のネットなどでの発言を捉えて元職員が名誉毀損で訴えを起こすということになりました。

この訴えは、松崎区議の口封じのための訴えという側面をもっているというふうに認識をしております。現在、その対応について関係者と検討しているところであります」。

しかし

・2016.5.2 中央委員会の見解

「一つはホテル館問題について。われわれが考える最大の問題は、団としての政治方針が一致確認されてこなかったことにあると。住民から選ばれた代表である党議員や党区議団の区民に対する責任は、ホテル館の不正追及、真相究明とともに、歴代区長をはじめとする区の問題を追及して、区民の納得の得られる対応をとらせることだと考えている。

その場合、議員団の過去の方針の全面否定をとる立場や、高島平住民の要望、感情を否定する立場ではなくて、ホテル館に期待を寄せている区民などの願いを裏切った区の問題を正していく政治方針が必要だったのではないかと。

それが区議団で見解が統一されず、担当職員の個人責任を追及することが中心になった。そういうことは不正を正す面で一定成果があったと思うけれど、結果として区の問題が後景に追いやられて、区がホテル館を廃止するというにとどまったのではないかと考える。

なお、政治方針が確立していなかった点については、地区委員会と都委員会の指導責任があるということを両者に伝えました。

二つ目、裁判の問題について。あなたがSNSで発信した発信内容は、法的に大丈夫か、どうかという問題ではない。SNSの発信問題で党機関が問題にしたのは、党規約が定めた市民道徳と社会的道義を守る先頭に立つ党の地方議員としてのあり方の問題である。

裁判は「SNSの発信を改めるべき」とか、「このままでは提訴されるのではないかと」という党機関、区議団、法律事務所からの指導や指摘があった。それに対し、あなたは「問題ない」と、これらを受け入れず、ますますエスカレートさせるなかで提訴されたという性格だ。

こうした点から、党機関や弁護士が、党に関わる裁判ではないという意見は適切だと考える。

またこの裁判は、発信してしまった内容をあらためず、それを既定の事実として訴訟方針を組み立てて争っている裁判であるので、本人自身が「党に指導されて言動を改めたとなると、裁判に不利になる」と、あなたが述べているように党がかかわることができない裁判である。

阿部博士の主な動き（平成 24 年 5 月～9 月）

平成 24 年

- | | | | |
|-------|---|-----|--|
| 5月7日 | 福島県郡山市日本大学工学部除染及びホタル生息空間作成の打ち合わせ | 9日 | 福島県あわら市べにや旅館
放射能低減及びホタル再生下打ち合わせ |
| 8日 | (板橋区ホタル生態環境館内) | 11日 | 福島県大熊町警戒区域放射能除染実験 |
| 10日 | 千葉県柏市柏市議(4名) ナノ銀による低減実験
(板橋区ホタル生態環境館内) | 12日 | (板橋区ホタル生態環境館内) |
| 11日 | 共同通信取材ホタル生態と放射能低減実験
(板橋区ホタル生態環境館内) | 13日 | 三重県環境保全事業団 ホタル生態と放射能低減実験
(板橋区ホタル生態環境館内) |
| 15日 | 福島県大熊町 渡辺利綱町長・千葉幸生大熊町議長
・秋本圭吾大熊町役場企画調整課長放射能低減実験
(板橋区ホタル生態環境館内) | | *フリーライター鈴木氏 取材 放射能とホタル
放射能低減実験 |
| 16日 | 産経新聞 取材 ホタル生態と放射能低減実験
(板橋区ホタル生態環境館内) | | *埼玉県春日部市 放射能低減実験
(板橋区ホタル生態環境館内) |
| 18日 | 日経BP取材ホタル生態と放射能低減実験
(板橋区ホタル生態環境館内) | 14日 | FM東京 生出演 ホタル生態と放射能除染
(板橋区ホタル生態環境館内) |
| 28日 | サンデー毎日 山田氏 取材 | 17日 | 北海道函館市 市議会議員 ホタルと放射能
(板橋区ホタル生態環境館内) |
| 29日 | 福島県いわき市ホタル再生と放射能除染
福島県郡山市日本大学工学部除染及びホタル生息空間
作成作業 | 21日 | 福島県いわき市 ホタル公開
(板橋区ホタル生態環境館内) |
| 6月3日 | 取材(板橋区ホタル生態環境館内) | 24日 | 自民党 町村派秘書24名 ホタル生態と放射能除染
新日本空調 原子力事業部 放射能低減実験確認 |
| 4日 | *R25 取材 ホタル生態と放射能除染 | 26日 | *小沢一郎「国民の生活が第一」代表に放射能除染の
経緯経過説明 |
| 11日 | *朝日新聞 取材 ホタル生態と放射能除染 | | *東京電力本社から吉澤部長他6名
放射能低減実験確認(板橋区ホタル生態環境館内) |
| 12日 | 福島県いわき市 ホタル再生事業と放射能除染 | 28日 | (板橋区ホタル生態環境館内) |
| 15日 | NHK ラジオ生出演ホタル再生と放射能除染
(板橋区ホタル生態環境館内) | 9日 | 岩崎 信先生放射能低減実験
(板橋区ホタル生態環境館内) |
| 19日 | *フジテレビ 特ダネ 取材 ホタル生態と放射能除染 | 9日 | 埼玉県教育委員会理科部会 ホタル生態と放射能低減実験
憲政会館放射能浄化勉強会
(板橋区ホタル生態環境館内) |
| 21日 | *Jウェーブ FM ラジオ 生出演 ホタル生態と放射能除染
(板橋区ホタル生態環境館内) | 10日 | 岩崎 信先生放射能低減実験
(板橋区ホタル生態環境館内) |
| 25日 | 日本道路公団 放射能除染実験
(板橋区ホタル生態環境館内) | 11日 | 岩手県庁渡辺放射線影響課長らと打ち合わせ
(板橋区ホタル生態環境館内) |
| 26日 | NHK 総合テレビ・ゆうどきネットワーク生出演
(板橋区ホタル生態環境館内) | 17日 | 放射能低減実験 |
| 28日 | 福島県大熊町 武内敏英教育長 他職員関係者11名
(板橋区ホタル生態環境館内) | 19日 | 栃木県宇都宮市で面会
国連技官藤田正孝チーフ (WHO)
放射能浄化 Abe-Effect の説明 |
| 6月29日 | 読売新聞 取材 ホタル生態と放射能除染 | 29日 | 宮城県仙台市 仙台北ロータリー卓話
ホタル生態と放射能除染
(板橋区ホタル生態環境館内) |
| 7月8日 | 読売新聞 取材 ホタル生態と放射能除染
福島県郡山市日本大学工学部除染及びホタル生息空間
確認点検
(板橋区ホタル生態環境館内) | 6日 | 片山ストラテック日月(たちもり)氏(元首都高速公同常務理事)、
村田氏 放射能低減実験確認
(板橋区ホタル生態環境館内) |
| | イギリス BBC 放送 取材 ホタル生態と放射能低減実験
(板橋区ホタル生態環境館内) | 8日 | 河村氏(元放射能医療センター研究者)、米木氏放射能低減
実験確認 |